

ISDN

概要・基本設定	3
基本設定	3
物理インターフェース	3
ISDN コール（接続先情報）の作成	3
データリンク層とのインターフェース	3
詳細設定	4
同時発呼時の調停	4
自動リトライ	4
ISDN コールバック	5
ISDN S/T バスに複数の機器を接続している場合	5
着信設定（着信呼の識別と認証）	6
着呼までの流れ	6
呼の識別・認証に使う情報の設定	7
コマンドリファレンス編	10
機能別コマンド索引	10
ACTIVATE ISDN CALL	11
ADD ISDN CALL	12
ADD ISDN CLILIST	17
ADD LAPD TEI	18
DEACTIVATE ISDN CALL	19
DELETE ISDN CALL	20
DELETE ISDN CLILIST	21
DELETE LAPD TEI	22
DISABLE ISDN CALL	23
DISABLE ISDN LOG	24
DISABLE Q931 DEBUG	25
ENABLE ISDN CALL	26
ENABLE ISDN LOG	27
ENABLE Q931 DEBUG	28
RESET Q931	30
SET ISDN CALL	31
SET ISDN LOG	35
SET LAPD	36
SET Q931	38

SHOW ISDN CALL	40
SHOW ISDN CLILIST	45
SHOW ISDN LOG	47
SHOW LAPD	51
SHOW LAPD COUNT	55
SHOW LAPD STATE	57
SHOW Q931	59

概要・基本設定

ここでは、BRI インターフェースを使って、ISDN 回線に接続するための方法について解説します。

基本設定

物理インターフェース

ISDN 網との接続には、BRI インターフェースを使います。BRI インターフェースはデフォルトで ISDN モードに設定されているため、特に設定を行うことなく使用できます。

本製品では、接続先の情報を ISDN コールとして定義することにより、上位のデータリンク層モジュールから ISDN コールを物理回線として使用できるようになります。

ISDN コール（接続先情報）の作成

「ISDN コール」は、ISDN における接続先登録情報です。この情報は、ISDN 網経由で相手先に発信接続するとき、および、ISDN 網経由で接続を受け入れるときに使用されます。ISDN 経由で発信・着信を行うためには、必ず ISDN コールを定義する必要があります。

ISDN コールは、ADD ISDN CALL コマンド（12 ページ）で定義します。作成した ISDN コールは、指定した相手との間に張られる呼（コール）を示すもので、専用線接続における TDM グループや LAN 接続における ETH インターフェースと同様、物理インターフェースとして扱われます。したがって、PPP インターフェースを作成するときに、下位回線として ISDN コール名を指定することができます。

ISDN コールを定義するには、ADD ISDN CALL コマンド（12 ページ）を使います。CALL パラメーターには任意の名前を、NUMBER パラメーターには相手の電話番号を、PRECEDENCE パラメーターには両側から同時に通信が開始された場合に発呼（OUT）、着呼（IN）のどちらを優先するかを指定します。以上 3 つのパラメーターは必須で省略できません。

```
ADD ISDN CALL=office NUMBER=0312342345 PRECEDENCE=OUT SEARCHCLI=ON ↓
```

「SEARCHCLI=ON」は着信時の動作設定で、NUMBER で指定した相手から着信したときのみ応答することを示します。ISP にダイヤルアップするときのように、着信の必要がない場合はこの設定は必要ありません。次のように指定できます

```
ADD ISDN CALL=isp NUMBER=0312345678 PRECEDENCE=OUT ↓
```

着信条件を指定するパラメーターはほかにもあります。詳しくは「着信設定（着信呼の識別と認証）」をご覧ください。

データリンク層とのインターフェース

ISDN コールは、上位モジュール（データリンク層）からは指定した接続相手との間に張られた物理回線（インターフェース）として扱われます。

ISDN 回線（ISDN コール）上で使用できるデータリンク層プロトコルは PPP（Point-to-Point Protocol）

の 1 種類のみです。

ISDN コール「office」上に PPP インターフェース「0」を作成するには次のようにします。CREATE PPP コマンド（「PPP」の 26 ページ）の OVER パラメーターに「ISDN-callname」の形式でコール名を指定してください。「ISDN-」は ISDN コールであることを示す固定文字列、「callname」はコール名です。

```
CREATE PPP=0 OVER=ISDN-office IDLE=ON ↓
```

詳細設定

同時発呼時の調停

通信相手と同時に発呼しようとした場合は、ISDN コールの PRECEDENCE パラメーターの設定によって、着信・発信のどちらを優先するかが決まります。ISDN コールを定義するときは、次に示すように、必ず一方を IN にもう一方を OUT に設定してください。

ルーター A

```
ADD ISDN CALL=CallToA NUMBER=0612342222 PRECEDENCE=OUT INTREQ=bri0
SEARCHCLI=ON ↓
```

ルーター B

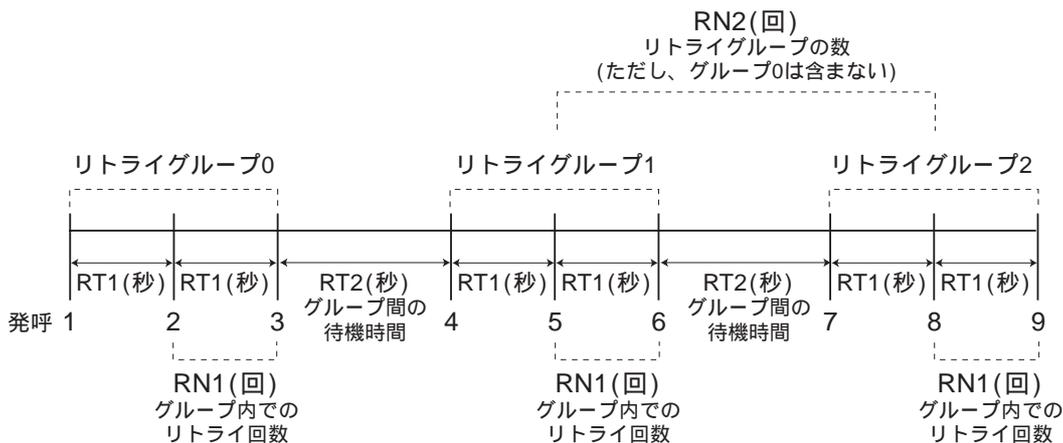
```
ADD ISDN CALL=CallToB NUMBER=0312341111 PRECEDENCE=IN INTREQ=bri0
SEARCHCLI=ON ↓
```

自動リトライ

発信接続に失敗した場合、あらかじめ指定した回数再接続を試みるよう設定することもできます。これは ISDN コールの RN1（グループ内でのリトライ回数）、RN2（初回をのぞく追加のリトライグループ数）、RT1（グループ内でのリトライ間隔）、RT2（リトライグループ間の間隔）パラメーターで設定します。デフォルトはリトライなしです。

リトライは、次の順序で行われます。

1. 初回の接続を試みる。
2. 接続できなかった場合、RT1（秒）間隔で RN1 回までリトライする。
3. RN1 回リトライしても接続できなかった場合は、RT2（秒）待機した後、再び手順 1～2 を RN2 回まで繰り返す。
4. それでも接続できない場合、ALTNUMBER パラメーターが指定されていれば、1 回だけ ALTNUMBER に発呼し、それでも失敗した場合はリトライをあきらめる。ただし、KEEPUP パラメーターに YES が設定されている場合は、接続できるまで手順 1～4 を繰り返し実行する。



ISDN コールバック

コールバックとは、かかってきた電話をかけなおす機能です。コールバック機能をうまく使用すれば、地域によって料金体系が異なる場所で常に安い側がコールバックを行ったり、料金の請求先をまとめたり、より強力なセキュリティ体制を築いたりすることができます。

本製品は、「ISDN コールバック」と「PPP コールバック」の2通りのコールバック方式をサポートしています。

- ISDN コールバックでは、ISDN の D チャンネルレベルで相手を識別しコールバックします。B チャンネルまでは接続されないため、最初に発呼した側には課金されません。
- PPP コールバックは、PPP で CHAP または PAP 認証を行うため（設定により、ISDN の D チャンネルレベルでの認証も併用可）、最初に発呼した側にも通信料金がかかります。

ここでは、ISDN コールバックの使用方法について解説します。PPP コールバックについては、「PPP」の章をご覧ください。

コールバック（かけなおす）する側は、ISDN コールの定義で `CALLBACK=ON` を指定します。

```
ADD ISDN CALL=TOOS NUMBER=0612342222 PREC=IN INTREQ=bri0 SEARCHCLI=ON ↓
SET ISDN CALL=TOOS CALLBACK=ON ↓
```

コールバック時に最初の呼を切断してからコールバックするまでの待機時間は、`CBDELAY` パラメーターで調整できます。時間は 0.1 秒単位で指定します。デフォルトは 41（4.1 秒）です。

```
SET ISDN CALL=TOOS CBDELAY=50 ↓
```

ISDN コールバックを無効にするには、`CALLBACK` パラメーターに `OFF` を指定します。

```
SET ISDN CALL=TOOS CALLBACK=OFF ↓
```

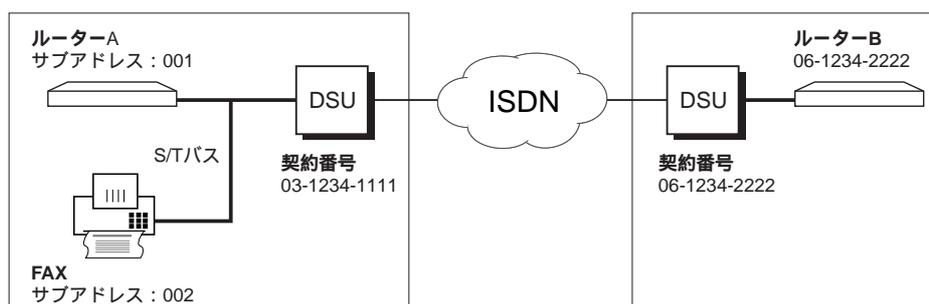
ISDN コールバックを要求する側には、特別な設定は必要ありません。

ISDN S/T バスに複数の機器を接続している場合

ISDN S/T バス上に複数の機器を接続している場合は、個々の ISDN 機器にサブアドレスを設定し、着信呼がどの機器に宛てられたものかを識別できるようにする必要があります。本製品のサブアドレスは、SET Q931 コマンド (38 ページ) の SUB1 パラメーターで設定します。

たとえば次の図では、ルーター A にサブアドレス「001」を、FAX に「002」を割り振っています。この場合、ルーター A の設定は次のようにして行います。

```
SET Q931=0 SUB1=001 NOSUB=REJECT ↓
```



これにより、本製品は着サブアドレスが「001」の呼に対してのみ何らかの処理（識別、認証など）を開始するようになります。「NOSUB=REJECT」ではなく「NOSUB=ACCEPT」（デフォルト）を指定すると、サブアドレスのない着信呼に対しては無条件で処理を開始します。

S/T バス上の ISDN 機器が本製品だけの場合は、SET Q931 コマンド (38 ページ) を実行する必要はありません。

着信設定（着信呼の識別と認証）

ISDN では、発呼時に「呼設定メッセージ」が接続先へ送られます。呼設定メッセージにはさまざまな情報を入れるフィールド（Q.931 では情報要素または IE = Information Element と呼びます）があり、本製品はそのうち以下のフィールドを使って情報を送ることができます。接続先では、これらの情報をもとに着信呼を識別し、呼に応答するかどうかを決定できます。

- 着サブアドレス
- ユーザー間情報
- 発番号（発信者番号）

どの着信呼を受け付け、どの着信呼を拒否するかといった条件は、基本的に ADD ISDN CALL コマンド (12 ページ) / SET ISDN CALL コマンド (31 ページ) の各種パラメーターを使って設定します。

着呼までの流れ

本製品が着信呼に応答するまでの流れを示します。

1. 着サブアドレスとルーター自身のサブアドレスの比較

ISDN S/T バスに複数の機器が接続されている場合など、SET Q931 コマンド (38 ページ) でルーター自身にサブアドレスが設定されている場合は、着信呼の着サブアドレスが SET Q931 コマンド (38 ページ) の SUB1 パラメーターで設定されたサブアドレスと一致する場合にのみ手順 2 に進み、それ以外の場合は他の機器に宛てた呼とみなして応答しません。SET Q931 コマンド (38 ページ) でサブアドレスが設定されていない場合は無条件で手順 2 に進みます。

2. SEARCH...パラメーターによる着信用 ISDN コールの選択 (SEARCH フェーズ)

着サブアドレスまたはユーザー間情報が送られてくるか、発信者番号が通知されてきた場合は、送られてきた情報と ADD ISDN CALL コマンド (12 ページ) /SET ISDN CALL コマンド (31 ページ) の SEARCHSUB、SEARCHUSER、SEARCHCLI パラメーターで指定された情報を比較し、一致する ISDN コール定義が見つければそれを選択して手順 3 に進みます。

条件にマッチする ISDN コールが見つからなかった場合は、ADD ISDN CALL コマンド (12 ページ) /SET ISDN CALL コマンド (31 ページ) で「INANY=ON」が指定されているコール名を探し、見つかった場合はそれを選択します。見つからなかった場合は、着信呼を拒否して切断します。

3. CHECK...パラメーターによる呼認証 (CHECK フェーズ)

手順 2 で選択した ISDN コール定義に CHECKSUB、CHECKUSER、CHECKCLI のいずれかのパラメーターが指定されていた場合は、さらに呼の認証 (チェック) を行います。すべての認証にパスして初めて着信呼に応答します。CHECK...パラメーターが指定されていなかった場合は無条件で応答します。いずれかの認証に失敗した場合は、着信呼を拒否して切断します。

呼の識別・認証に使う情報の設定

発呼時に送信する情報 (OUT...パラメーター)

発呼時に接続先へ送信する情報は、ADD ISDN CALL コマンド (12 ページ) /SET ISDN CALL コマンド (31 ページ) の OUTSUB、OUTUSER、OUTCLI、SUBADDRESS パラメーターで指定します。これらの情報は、接続先で着信判断を行うときに使用されます。

サブアドレスを送るには OUTSUB パラメーターを使います。「OUTSUB=LOCAL」を指定すると、自コール名 (CALL パラメーター) が相手に送られます。発呼時に着サブアドレスとして自コール名「TOOS」を送るには、次のようにします。

```
SET ISDN CALL=TOOS OUTSUB=LOCAL ↓
```

また、「OUTSUB=REMOTE」を指定すると、REMOTECALL パラメーターで指定した文字列が相手先に送られます。サブアドレスとしてコール名以外の文字列を送る場合はこちらを使用してください。着サブアドレスとして「001」を送るには、次のようにします。

```
SET ISDN CALL=TOOS OUTSUB=REMOTE REMOTECALL=001 ↓
```

また、数字のみのサブアドレスを送りたいときは、SUBADDRESS パラメーターを使うこともできます。SUBADDRESS パラメーターを指定した場合、OUTSUB パラメーターは無効となります。

```
SET ISDN CALL=TOOS SUBADDRESS=001 ↓
```

着信呼の識別に使う情報 (SEARCH...パラメーター)

本製品は、外部から着信があった場合、ADD ISDN CALL コマンド (12 ページ) /SET ISDN CALL コマンド (31 ページ) で指定した SEARCHSUB、SEARCHUSER、SEARCHCLI、INANY の各パラメーターの値をもとに、どの ISDN コールを使って応答すればよいかを判断します。

ADD ISDN CALL コマンド (12 ページ) /SET ISDN CALL コマンド (31 ページ) で「SEARCHSUB=LOCAL」を指定すると、コール名と同じサブアドレスの着信呼にのみ応答します。「SEARCHSUB=REMOTE」を指定した場合は、リモートコール名と同じサブアドレスの着信呼にのみ応答します。次の例では、着信呼のサブアドレスが「TOOS」と一致する場合にのみ応答します。

```
SET ISDN CALL=TOOS SEARCHSUB=LOCAL ↓
```

「SEARCHUSER=LOCAL」を指定すると、ユーザー間情報が自分のコール名と一致する呼にのみ応答します。「SEARCHUSER=REMOTE」を指定すると、ユーザー間情報が自分のリモートコール名と一致する着信呼にのみ応答します。

次の例では、ユーザー間情報として「TOOS」が送られてきた場合 (発呼側のコール名が「TOOS」で「OUTUSER=LOCAL」が指定されていたような場合) にのみ応答します。

```
SET ISDN CALL=TOOS SEARCHUSER=LOCAL ↓
```

「SEARCHCLI=ON」を指定すると、発信者番号が接続先番号 (NUMBER パラメーターで指定) と一致する場合にのみ応答させることもできます。

次の例では、発信者番号が「06-1234-2222」の着信呼にのみ応答します。

```
ADD ISDN CALL=TOOS NUMBER=0612342222 PREC=OUT SEARCHCLI=ON ↓
```

また、発番号リストを使うと、あらかじめリストに登録しておいた番号からの着信呼にのみ応答させることができます。リストは 100 個まで作成できます。

発番号リストの作成は ADD ISDN CLILIST コマンド (17 ページ) で行います。CLILIST パラメーターには任意のリスト番号 (0~99)、NUMBER には登録する番号を指定します。

```
ADD ISDN CLILIST=0 NUMBER=0312341111 ↓
```

```
ADD ISDN CLILIST=0 NUMBER=0323452222 ↓
```

この例では、03-1234-1111 と 03-2345-2222 の 2 つの番号を発番号リスト「0」番に登録しています。

リスト「0」番に登録されている番号からの着信呼にのみ応答するよう ISDN コール「TOOS」を設定するには、次のようにします。発番号リストを使うときは、SEARCHCLI パラメーターに発番号リストの番号を指定します。

```
SET ISDN CALL=TOOS SEARCHCLI=0 ↓
```

ダイヤルアップサーバーのように不特定多数からの着信を受け付ける場合は「INANY=ON」を指定し

ます。

```
SET ISDN CALL=TOOS INANY=ON ↓
```

- 複数の ISDN コールに「INANY=ON」を指定することはできません（デフォルトは「INANY=OFF」）。また、SEARCH...パラメーターによる着信識別を行う場合は「INANY=ON」を指定しないでください。

ここまでの条件に一致しなかった着信呼は拒否（切断）されます。ISDN の着信を許可する場合は、少なくとも SEARCHSUB、SEARCHUSER、SEARCHCLI=ON、INANY=ON のいずれか 1 つを指定してください。これらを指定しなかった場合、その ISDN コールは発呼専用になります。一方、発信専用でかまわない場合は、これらのパラメーターを指定しないでください。たとえば、ISP 接続用の ISDN コールは次のようになります。

```
ADD ISDN CALL=isp NUMBER=0312345678 PREC=OUT INTREQ=bri0 ↓
```

着信呼の認証に使う情報（CHECK...パラメーター：オプション）

CHECKSUB、CHECKUSER、CHECKCLI の各パラメーターを指定することにより、SEARCH フェーズで条件に一致した ISDN コールに対して、さらに追加のチェック（認証）を行うこともできます。CHECK...パラメーターが指定されていない場合は、この時点で着信呼に応答します。

CHECKSUB、CHECKUSER パラメーターの動きは、基本的に SEARCHSUB、SEARCHUSER パラメーターと同じです。LOCAL が指定されていればコール名（CALL）と、REMOTE が指定されていればリモートコール名（REMOTECALL）と、送られてきた情報（サブアドレスやユーザー間情報）を突き合わせます。

CHECKCLI パラメーターを使用すると、あらかじめ発番号リストに登録しておいた番号からの着信呼にのみ応答させることができます。リストは 100 個まで作成できます。

発番号リストの作成は ADD ISDN CLILIST コマンド（17 ページ）で行います。CLILIST パラメーターには任意のリスト番号（0～99）NUMBER には登録する番号を指定します。

```
ADD ISDN CLILIST=0 NUMBER=0312341111 ↓
```

```
ADD ISDN CLILIST=0 NUMBER=0323452222 ↓
```

この例では、03-1234-1111 と 03-2345-2222 の 2 つの番号を発番号リスト「0」番に登録しています。

リスト「0」番に登録されている番号からの着信呼にのみ応答するよう ISDN コール「TOOS」を設定するには、次のようにします。

```
SET ISDN CALL=TOOS INANY=ON CHECKCLI=REQUIRED CLILIST=0 ↓
```

コマンドリファレンス編

機能別コマンド索引

ISDN コール

ACTIVATE ISDN CALL	11
ADD ISDN CALL	12
ADD ISDN CLILIST	17
DEACTIVATE ISDN CALL	19
DELETE ISDN CALL	20
DELETE ISDN CLILIST	21
DISABLE ISDN CALL	23
DISABLE ISDN LOG	24
ENABLE ISDN CALL	26
ENABLE ISDN LOG	27
SET ISDN CALL	31
SET ISDN LOG	35
SHOW ISDN CALL	40
SHOW ISDN CLILIST	45
SHOW ISDN LOG	47

LAPD

ADD LAPD TEI	18
DELETE LAPD TEI	22
SET LAPD	36
SHOW LAPD	51
SHOW LAPD COUNT	55
SHOW LAPD STATE	57

Q.931

DISABLE Q931 DEBUG	25
ENABLE Q931 DEBUG	28
RESET Q931	30
SET Q931	38
SHOW Q931	59

ACTIVATE ISDN CALL

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

ACTIVATE ISDN CALL=*call-name*

call-name: コール名 (1~15 文字。英数字とアンダースコアを使用可能。大文字小文字を区別しない)

解説

ISDN コールを起動し発呼する。

パラメーター

CALL ISDN コール名。ADD ISDN CALL コマンドの USER パラメーターが ATTACH (デフォルト) に設定されている場合は、あらかじめ ISDN コール上に PPP インターフェースを作成しておく必要がある。

例

ISDN コール定義「isp」を使って手動発呼する。

```
ACTIVATE ISDN CALL=isp
```

関連コマンド

ADD ISDN CALL (12 ページ)

DEACTIVATE ISDN CALL (19 ページ)

DELETE ISDN CALL (20 ページ)

DISABLE ISDN CALL (23 ページ)

ENABLE ISDN CALL (26 ページ)

SHOW ISDN CALL (40 ページ)

ADD ISDN CALL

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

```
ADD ISDN CALL=call-name NUMBER=number PRECEDENCE={IN|OUT}
  [ALTNUMBER=number] [BUMPDELAY=0..100] [CALLBACK={ON|OFF|YES|NO|TRUE|
  FALSE}] [CALLINGNUMBER=number] [CALLINGSUBADDRESS=subaddress]
  [CBDELAY=0..100] [CHECKCLI={OFF|PRESENT|REQUIRED}] [CHECKSUB={OFF|LOCAL|
  REMOTE}] [CHECKUSER={OFF|LOCAL|REMOTE}] [CLILIST=0..99] [DIRECTION={IN|
  OUT|BOTH}] [HOLDUP=0..7200] [INANY={ON|OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}]
  [INTPREF={NONE|bri-interface}] [INTREQ={NONE|bri-interface}] [KEEPUP={ON|
  OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}] [LOGIN={ALL|NONE|CHAP|PAP-RADIUS|PAP-TACACS|
  RADIUS|TACACS|USER}] [OUTCLI={OFF|CALLING|INTERFACE|NONUMBER}]
  [OUTSUB={OFF|LOCAL|REMOTE}] [OUTUSER={OFF|LOCAL|REMOTE}] [PASSWORD={NONE|
  CLI|CALLED|SUB|NAME|USER}] [PPPTEMPLATE=template] [PRIORITY=0..99]
  [RATE={56K|64K}] [REMOTECALL=call-name|remote-number] [RN1=0..10]
  [RN2=0..5] [RT1=5..120] [RT2=300..1200] [SEARCHCLI={ON|OFF|YES|NO|TRUE|
  FALSE|CALLED|0..99}] [SEARCHSUB={OFF|LOCAL|REMOTE}] [SEARCHUSER={OFF|
  LOCAL|REMOTE}] [SUBADDRESS=number] [USER={ATTACH|PPP}] [USERNAME={NONE|
  CLI|CALLED|SUB|NAME|USER}]
```

call-name: コール名 (1~15 文字。英数字とアンダースコアを使用可能。大文字小文字を区別しない)

number: ISDN 番号 (1~31 文字。数字のみ)

subaddress: サブアドレス (1~31 文字。英数字とアンダースコア (.) を使用可能。大文字小文字を区別しない)

bri-interface: BRI インターフェース番号

template: PPP テンプレート番号 (1~31)

remote-number: 番号 (1~15 文字)

解説

ISDN コール (ISDN 接続先情報) を作成する。

CALL、NUMBER、PRECEDENCE パラメーターが必須で、残りはオプション。

パラメーター

CALL ISDN コール名

NUMBER 接続先 ISDN 番号 (メイン番号)

PRECEDENCE 接続先と同時に発呼した場合にどちら向きの呼を優先するか。IN は着信呼を優先、OUT は発信呼を優先する。

ALTNUMBER 代替 ISDN 番号。規定回数再ダイヤルしても NUMBER で指定した番号に接続できなかった場合に使用される。ALTNUMBER に対する再ダイヤルは行われない。ただし、KEEPUP パラメーターが ON のときは、NUMBER (RN1 + 1) × (RN2 + 1) 回ダイヤル、ALTNUMBER、

NUMBER...の順で呼が確立するまで繰り返し再試行する。

BUMPDELAY コールバンピング（優先度の高い呼を発呼するため、接続中の B チャンネルを切断すること）時に、既存の呼を切断してから、この呼を発呼するまでの待ち時間。0.1 秒単位で指定する。デフォルトは 5（0.5 秒）。

CALLBACK 着呼時にコールバックするかどうか。

CALLINGNUMBER 発番号。OUTCLI パラメーターの説明を参照。

CALLINGSUBADDRESS 発サブアドレス。OUTCLI パラメーターに CALLING を指定した場合にのみ使用される。

CBDELAY コールバック有効時（CALLBACK=ON）に、呼を切断してからコールバックするまでの待ち時間。0.1 秒単位で指定する。デフォルトは 41（4.1 秒）。

CHECKCLI 着信呼の発番号 IE をチェックするかどうか。PRESENT を指定した場合は、呼設定メッセージに発番号 IE が含まれ、なおかつ、有効な番号が含まれている場合にのみチェックを行う。発番号 IE が含まれていない場合や、有効な番号がセットされていない場合は、無条件で認証をパスする。有効な番号が含まれていた場合は、その番号が CLILIST パラメーターで指定した発番号リストに掲載されていれば認証成功、掲載されていなければ認証失敗となる。REQUIRED を指定した場合は、呼設定メッセージに発番号 IE が含まれ、有効な番号が設定されており、なおかつ、発番号リストに掲載されているときだけ認証にパスする。OFF を指定した場合は、発番号 IE をチェックしない。デフォルトは OFF。

CHECKSUB 着信呼の着サブアドレス IE をチェックするかどうか。LOCAL を指定した場合は、着サブアドレス IE に自コール名（CALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ認証成功となる。REMOTE を指定した場合は、着サブアドレス IE にリモートコール名（REMOTECALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ認証成功となる。OFF を指定した場合は、着サブアドレス IE をチェックしない。デフォルトは OFF。

CHECKUSER 着信呼のユーザー間データ IE をチェックするかどうか。LOCAL を指定した場合は、ユーザー間データ IE に自コール名（CALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ認証成功となる。REMOTE を指定した場合は、ユーザー間データ IE にリモートコール名（REMOTECALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ認証成功となる。OFF を指定した場合は、ユーザー間データ IE をチェックしない。デフォルトは OFF。

CLILIST 発番号リストの番号。CHECKCLI パラメーターに PRESENT か REQUIRED を指定した場合にのみ有効。デフォルトは未定義。

DIRECTION 呼の方向。IN（着信専用）、BOTH（発着両用）、OUT（発信専用）のいずれか。デフォルトは BOTH。

HOLDUP ISDN コールの最低持続時間（秒）。ユーザーが呼切断の要求を出したときに、最低持続時間に達していない場合、時間が来るまで切断要求は無視される。デフォルトは 0 秒。

INANY すべての着信呼に応答するかどうか。デフォルトは OFF。複数の ISDN コールに「INANY=ON」を指定してはならない（どの呼が着信応答に使われるか予測できないため）。

INTPREF 発呼時に優先的に使用する BRI インターフェースを指定する。INTREQ パラメーターが指定されているときは無効。発呼時には、指定されたインターフェースを最初にチェックし、ISDN モードの空きスロットがない場合は他のインターフェースを探す。NONE は無指定を意味する。無指定時は、インターフェース番号の若い順に ISDN モードの空きスロット（チャンネル）を探し、最初に見つかったスロットを使って発呼する。デフォルトは NONE。

INTREQ 発呼時に使用する BRI インターフェースを指定する。該当インターフェースに空きチャンネル

がない場合は、発呼に失敗する。NONEは無指定を意味する。無指定時は、インターフェース番号の若い順にISDNモードの空きスロットを探し、最初に見つかったスロットを使って発呼する。デフォルトはNONE。

KEEPUP 呼を常時接続状態に保つかどうか。このパラメーターの値は、メイン番号（再ダイヤルを含む）、代替番号とも接続に失敗したとき、および、何らかの理由で呼が切断されたとき（ただし、上位モジュールによる切断、管理コマンドによる明示的切断は除く）にチェックされ、YESのときは再度発呼を試みる。デフォルトはNO。

LOGIN 着呼時に必ず使用しなくてはならない認証方式を指定する。後方互換性のためのパラメーター。認証方式には、CHAP、PAP-RADIUS、PAP-TACACS、RADIUS、TACACS、USER（ユーザー認証データベース）、NONE（どれでもよい）がある。CHAP、PAP-RADIUS、PAP-TACACSは、着呼時にダイナミックPPPインターフェースが作成される場合にのみ有効で、PPPテンプレートの設定よりも優先される。デフォルトはNONE。

OUTCLI 発呼時の呼設定メッセージに含める発番号IEと発サブアドレスIEの形式を指定する。OFFを指定した場合はこれらのIEを設定しない。CALLINGを指定した場合は、CALLINGNUMBERパラメーターで指定した発番号とCALLINGSUBADDRESSパラメーターで指定した発サブアドレスを設定する。CALLINGSUBADDRESSパラメーターが設定されていない場合、発サブアドレスIEは呼設定メッセージに含まれない。INTERFACEを指定した場合は、Q.931インターフェースの番号とサブアドレス（SET Q931 コマンドのNUM1、NUM2、SUB1、SUB2パラメーター）が使用される。Q.931インターフェースにサブアドレスが設定されていない場合、サブアドレスIEは設定されない。NONUMBERを指定した場合は、空の発番号IEとQ.931インターフェースのサブアドレスが（設定されていれば）使用される。デフォルトはOFF。ルーターが設定しなくても、ISDN網は呼設定メッセージに発番号IEを設定する。

OUTSUB 発呼時の呼設定メッセージに含める着サブアドレスIEの内容を指定する。OFFを指定した場合は、サブアドレスIEを含めない。LOCALを指定した場合は、サブアドレスIEにコール名（CALLパラメーター）を設定する。REMOTEを指定した場合は、サブアドレスIEにリモートコール名（REMOTECALLパラメーター）を設定する。デフォルトはOFF。

OUTUSER 発呼時の呼設定メッセージに含めるユーザー間データIEの内容を指定する。OFFを指定した場合は、ユーザー間データIEを含めない。LOCALを指定した場合は、ユーザー間データIEにコール名（CALLパラメーター）を設定する。REMOTEを指定した場合は、ユーザー間データIEにリモートコール名（REMOTECALLパラメーター）を設定する。デフォルトはOFF。

PASSWORD 着信時のログイン処理に用いるパスワードをどこから取得するかを指定する。CLI（発番号IE）、CALLEDSUB（着サブアドレスIE）、USER（ユーザー間データIE）、NAME（コール名）、NONE（なし）から選択する。デフォルトはNONE。

PPPTEMPLATE 着信時にPPPインターフェースを動的作成するためのPPPテンプレート番号。

PRIORITY 呼の優先度。コールバンピング機能で使用する。値は0~99。大きいほど優先度が高い。デフォルト値は50。

RATE Bチャンネル上で使用する帯域幅。64K（Bチャンネルの全帯域）と56K（ITU-T V.110）から選択する。このパラメーターの値は発呼時にのみ使用される。着呼時の帯域幅は、呼設定メッセージの伝達能力、または、Q.931インターフェースの帯域幅パラメーター（SET Q931 コマンドのRATEパラメーター）によって決まる。デフォルトは64K。

REMOTECALL リモートコール名

RN1 リトライグループ内での再ダイヤル回数。デフォルトは0。

- RN2** リトライグループの数（ただし、初回のリトライグループ（グループ0）は除く）。デフォルトは0。最大ダイヤル回数は、 $(RN1 + 1) \times (RN2 + 1)$ となる。デフォルトではRN1、RN2とも0なので、ダイヤル回数は1回のみ（再ダイヤルしない）。
- RT1** 同一リトライグループ内での再ダイヤル間隔（秒）。デフォルトは30秒。
- RT2** リトライグループ間の待機時間（秒）。デフォルトは600秒。
- SEARCHCLI** 着信時に発番号IEに基づく応答判断を行うかどうか。ONを指定した場合は、呼設定メッセージの発番号IEとNUMBERパラメーターの値が一致した場合のみ、この呼の処理を続ける。発番号リスト（CLILIST）の番号を指定した場合は、発番号IEにセットされた番号がリストに掲載されているかどうかをチェックし、掲載されていた場合にのみ呼の処理を続ける。OFFを指定した場合は、発番号IEによる応答判断を行わない。デフォルトはOFF。
- SEARCHSUB** 着信時に着サブアドレスIEに基づく応答判断を行うかどうか。LOCALを指定した場合は、着サブアドレスIEに自コール名（CALLパラメーターの値）が設定されていた場合のみ、この呼の処理を続ける。REMOTEを指定した場合は、着サブアドレスIEにリモートコール名（REMOTECALLパラメーターの値）が設定されていた場合にのみ呼の処理を続ける。OFFを指定した場合は、着サブアドレスIEによる応答判断を行わない。デフォルトはOFF。
- SEARCHUSER** 着信時にユーザー間データIEに基づく応答判断を行うかどうか。LOCALを指定した場合は、ユーザー間データIEに自コール名（CALLパラメーターの値）が設定されていた場合のみ、この呼の処理を続ける。REMOTEを指定した場合は、ユーザー間データIEにリモートコール名（REMOTECALLパラメーターの値）が設定されていた場合にのみ呼の処理を続ける。OFFを指定した場合は、ユーザー間データIEによる応答判断を行わない。デフォルトはOFF。
- SUBADDRESS** 発呼時に呼設定メッセージの着サブアドレスIEに設定するサブアドレスを指定する。数字のみ指定可能。接続先ルーターが他のISDN機器とISDN S/Tバスを共有しているような場合に使う。OUTSUBパラメーターよりも優先される。デフォルトは空文字列。
- USER** ISDNコールを利用する上位モジュールの種類を指定する。ATTACHは、コマンド入力によって明示的に設定された上位モジュール（PPPインターフェースなど）を示す。PPPは、着呼後にダイナミックPPPインターフェースを作成する場合に指定する。デフォルトはATTACH。
- USERNAME** 着信時のログイン処理に用いるユーザー名をどのようにして取得するかを指定する。CLI（発番号IE）、CALLEDSUB（着サブアドレスIE）、USER（ユーザー間データIE）、NAME（コール名）、NONE（なし）から選択する。デフォルトはNONE。

例

ISDNコール「remote」を定義する。接続先は06-1234-2222で、相手と同時に通信を開始した場合は発呼を優先する。発呼には必ずbri0インターフェースを使用する。また、着信時は06-1234-2222からの着呼にのみ応答する。

```
ADD ISDN CALL=remote NUMBER=0612342222 PRECEDENCE=OUT INTREQ=bri0
SEARCHCLI=ON
```

関連コマンド

ACTIVATE ISDN CALL (11 ページ)

DEACTIVATE ISDN CALL (19 ページ)

DELETE ISDN CALL (20 ページ)

DISABLE ISDN CALL (23 ページ)

ENABLE ISDN CALL (26 ページ)

SHOW ISDN CALL (40 ページ)

ADD ISDN CLILIST

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

ADD ISDN CLILIST=0..99 NUMBER=number

number: ISDN 番号 (1~31 文字。数字のみ)

解説

発番号リストに ISDN 番号を登録する。

発番号リストは、着信時にどの ISDN コールで応答するかを決定するとき (SEARCH フェーズ) や、着信呼の認証 (CHECK フェーズ) に使用する。

具体的には、ISDN コールの SEARCHCLI パラメーターにリスト番号を指定した場合、および、CHECKCLI パラメーターに REQUIRED か PRESENT を指定し、なおかつ CLILIST パラメーターでリスト番号を指定した場合に使用される。

外部からの着信時には、呼設定メッセージ内の発番号 IE の情報が、発番号リスト内の番号と一致するかどうかをチェックする。このとき、番号のチェックは後方一致で行われるため、発番号 IE が 0312345678 なら、発番号リスト内の 5678、12345678、0312345678 のいずれにもマッチする。

パラメーター

CLILIST リスト番号

NUMBER ISDN 番号

例

発番号リスト「0」に 2 つの番号を追加する。

```
ADD ISDN CLILIST=0 NUMBER=0123456789
```

```
ADD ISDN CLILIST=0 NUMBER=9876543210
```

関連コマンド

DELETE ISDN CLILIST (21 ページ)

SHOW ISDN CLILIST (45 ページ)

ADD LAPD TEI

カテゴリー : ISDN / LAPD

対象機種 : AR130、AR160

ADD LAPD=interface TEI=tei...

interface: スロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

tei: TEI 値 (端末終端点識別子)(0~63)

解説

LAPD インターフェースに TEI 値 (Terminal Endpoint Identifier = 端末終端点識別子) を割り当てる。通常 TEI 値は自動的に割り当てられるので、本コマンドを使用する必要はない。TEI 値の自動割り当てが行われない BRI インターフェースに対してのみ使用すること。

パラメーター

LAPD LAPD インターフェース番号。スロット型インターフェース番号 (ISDN モードの BRI インターフェースに対して 0 から順に割り当てられる番号) で指定する。

TEI TEI 値 (Terminal Endpoint Identifier = 端末終端点識別子)

関連コマンド

DELETE LAPD TEI (22 ページ)

SET LAPD (36 ページ)

SHOW LAPD (51 ページ)

DEACTIVATE ISDN CALL

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

DEACTIVATE ISDN CALL={*acnum*|*call-name*}

acnum: アクティブ ISDN コール番号

call-name: コール名 (1~15 文字。英数字とアンダースコアを使用可能。大文字小文字を区別しない)

解説

ISDN コールを切断する。

パラメーター

CALL アクティブな ISDN コールのインデックス番号 (SHOW ISDN CALL コマンドで表示される ISDN active calls の Index 値) または、ISDN コール名。インデックスを指定した場合は、指定した呼だけを切断する。コール名を指定した場合は、該当コール定義に基づくすべてのアクティブな呼が切断される。

関連コマンド

ACTIVATE ISDN CALL (11 ページ)

ADD ISDN CALL (12 ページ)

DELETE ISDN CALL (20 ページ)

DISABLE ISDN CALL (23 ページ)

ENABLE ISDN CALL (26 ページ)

SHOW ISDN CALL (40 ページ)

DELETE ISDN CALL

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

DELETE ISDN CALL=*call-name*

call-name: コール名 (1~15 文字。英数字とアンダースコアを使用可能。大文字小文字を区別しない)

解説

ISDN コールを削除する。

該当コールが通信中の場合、あるいは、上位に PPP インターフェースを作成しているときは削除できない。

パラメーター

CALL ISDN コール名

関連コマンド

ACTIVATE ISDN CALL (11 ページ)

ADD ISDN CALL (12 ページ)

DEACTIVATE ISDN CALL (19 ページ)

DISABLE ISDN CALL (23 ページ)

ENABLE ISDN CALL (26 ページ)

SHOW ISDN CALL (40 ページ)

DELETE ISDN CLILIST

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

DELETE ISDN CLILIST=0..99 NUMBER=number

number: ISDN 番号 (1~31 文字。数字のみ)

解説

発番号リストから ISDN 番号を削除する。

パラメーター

CLILIST 発番号リスト番号 (0~99)

NUMBER 削除する ISDN 番号

例

発番号リスト「0」から ISDN 番号 0123456789 を削除する。

DELETE ISDN CLILIST=0 NUMBER=0123456789

関連コマンド

ADD ISDN CLILIST (17 ページ)

SHOW ISDN CLILIST (45 ページ)

DELETE LAPD TEI

カテゴリー : ISDN / LAPD

対象機種 : AR130、AR160

DELETE LAPD=interface TEI=tei

interface: スロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

tei: TEI 値 (端末終端点識別子)(0~63)

解説

LAPD インターフェースから TEI 値 (Terminal Endpoint Identifier = 端末終端点識別子) を削除する。該当する TEI 値を使用していたコネクションは解放される。また、該当する DLC を使用していた呼は切断される。

パラメーター

LAPD LAPD インターフェース番号。スロット型インターフェース番号 (ISDN モードの BRI インターフェースに対して 0 から順に割り当てられる番号) で指定する。

TEI TEI 値 (Terminal Endpoint Identifier = 端末終端点識別子)

関連コマンド

ADD LAPD TEI (18 ページ)

SET LAPD (36 ページ)

SHOW LAPD (51 ページ)

DISABLE ISDN CALL

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

DISABLE ISDN CALL=*call-name*

call-name: コール名 (1~15 文字。英数字とアンダースコアを使用可能。大文字小文字を区別しない)

解説

ISDN コールの定義を一時的に無効にする。現在通信中の呼には影響しない。

パラメーター

CALL ISDN コール名

関連コマンド

ACTIVATE ISDN CALL (11 ページ)

ADD ISDN CALL (12 ページ)

DEACTIVATE ISDN CALL (19 ページ)

DELETE ISDN CALL (20 ページ)

ENABLE ISDN CALL (26 ページ)

SHOW ISDN CALL (40 ページ)

DISABLE ISDN LOG

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

DISABLE ISDN LOG

解説

ISDN コールログ機能を無効にする。デフォルトは有効。

この機能は、ルーターのシステムログとは別のもので、ISDN コールに関する各種イベントを記録し、指定された非同期ポートに出力する。ログメッセージの最大数と出力先非同期ポートは、SET ISDN LOG コマンドで設定する。デフォルトでは、出力先非同期ポートが指定されていない。なお、ISDN コールに関する情報は、ルーターのシステムログにも記録される。

関連コマンド

DISABLE Q931 DEBUG (25 ページ)

ENABLE ISDN LOG (27 ページ)

ENABLE Q931 DEBUG (28 ページ)

SET ISDN LOG (35 ページ)

SHOW ISDN LOG (47 ページ)

DISABLE Q931 DEBUG

カテゴリー : ISDN / Q.931

対象機種 : AR130、AR160

```
DISABLE Q931=interface DEBUG={MDECODE|MRAW|SDLC|SINTERFACE|SSPID|  
SSPIDFILE|STATE|TRACE}
```

interface: BRI インターフェース名 (BRI0 など) またはスロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

解説

Q.931 インターフェースのデバッグオプションを無効にする。

パラメーター

Q931 BRI インターフェース名

DEBUG 無効にするデバッグオプション。

関連コマンド

DISABLE ISDN LOG (24 ページ)

ENABLE ISDN LOG (27 ページ)

ENABLE Q931 DEBUG (28 ページ)

SET ISDN LOG (35 ページ)

SHOW ISDN LOG (47 ページ)

ENABLE ISDN CALL

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

ENABLE ISDN CALL=*call-name*

call-name: コール名 (1~15 文字。英数字とアンダースコアを使用可能。大文字小文字を区別しない)

解説

ISDN コールを有効にする。

パラメーター

CALL ISDN コール名

関連コマンド

ACTIVATE ISDN CALL (11 ページ)

ADD ISDN CALL (12 ページ)

DEACTIVATE ISDN CALL (19 ページ)

DELETE ISDN CALL (20 ページ)

DISABLE ISDN CALL (23 ページ)

SET ISDN CALL (31 ページ)

SHOW ISDN CALL (40 ページ)

ENABLE ISDN LOG

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

ENABLE ISDN LOG

解説

ISDN コールログ機能を有効にする。デフォルトは有効。

この機能は、ルーターのシステムログとは別のもので、ISDN コールに関する各種イベントを指定数だけ保存し、呼切断時に既定の非同期ポートへ出力する。ログメッセージの最大保存数と出力先非同期ポートは、SET ISDN LOG コマンドで設定する。保存中のログメッセージが最大値を超えた場合は、すでに切断された呼の記録が古いものから順に削除される。切断済みの呼がない場合は、最大値を超えても記録を続ける。なお、ISDN コールに関する情報は、ルーターのシステムログにも記録される。

関連コマンド

DISABLE ISDN LOG (24 ページ)

DISABLE Q931 DEBUG (25 ページ)

ENABLE Q931 DEBUG (28 ページ)

SET ISDN LOG (35 ページ)

SHOW ISDN LOG (47 ページ)

ENABLE Q931 DEBUG

カテゴリー：ISDN / Q.931

対象機種：AR130、AR160

```
ENABLE Q931=interface DEBUG={MDECODE|MRAW|SDLC|SINTERFACE|SSPID|
    SSPIDFILE|STATE|TRACE}
```

interface: BRI インターフェース名 (BRI0 など) またはスロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

解説

Q.931 インターフェースのデバッグオプションを有効にする。

パラメーター

Q931 BRI インターフェース名

DEBUG 有効にするデバッグオプション

MDECODE	Q.931 メッセージをデコードして表示する。メッセージヘッダーとメッセージに含まれる情報要素 (IE) の種別を表示する。各 IE の内容は 16 進数ダンプで表示されるが、IE によっては詳細なデコードが行われるものもある。デバッグオプション MRAW が有効になっていた場合、MRAW オプションは無効となり、つねにデコード表示が行われるようになる。
MRAW	Q.931 メッセージを 16 進数ダンプで表示する。
SDLC	DLC の状態遷移を表示する
SINTERFACE	インターフェースの状態遷移を表示する
SSPID	SPID の状態遷移を表示する
SSPIDFILE	SPID ファイルの状態遷移を表示する
STATE	呼の状態遷移を表示する
TRACE	Q.931 モジュールのサブルーチン呼び出し情報を表示する。本デバッグオプションは特定のインターフェースに依存しないため、すべての Q931 パラメーターで有効になる

表 1: Q.931 デバッグオプション

関連コマンド

DISABLE ISDN LOG (24 ページ)

DISABLE Q931 DEBUG (25 ページ)

ENABLE ISDN LOG (27 ページ)

SET ISDN LOG (35 ページ)

SHOW ISDN LOG (47 ページ)

RESET Q931

カテゴリー : ISDN / Q.931

対象機種 : AR130、AR160

```
RESET Q931=interface [CALL={q931-call-id|ALL}]
```

interface: BRI インターフェース名 (BRI0 など) またはスロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

q931-call-id: Q.931 コール番号

解説

Q.931 インターフェースまたは呼をリセットする (通常の呼切断手順は用いない)。

パラメーター

Q931 BRI インターフェース名

CALL リセットする呼の Q.931 コールインデックス番号。SHOW Q931 コマンドの CALL オプションで表示される Index の値を指定する (SHOW ISDN CALL コマンドで表示される Index ではないので注意)。本パラメーターを指定した場合は、呼が使用しているチャンネルの初期設定 (RESTART メッセージ) を網に要求する。ALL を指定した場合は、アクティブな呼すべてをリセットする。CALL パラメーターを指定しなかった場合は、インターフェース全体をリセットする。

関連コマンド

SET Q931 (38 ページ)

SHOW Q931 (59 ページ)

SET ISDN CALL

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

```
SET ISDN CALL=call-name [NUMBER=number] [PRECEDENCE={IN|OUT}]
  [ALTNUMBER=number] [BUMPDELAY=0..100] [CALLBACK={ON|OFF|YES|NO|TRUE|
  FALSE}] [CALLINGNUMBER=number] [CALLINGSUBADDRESS=subaddress]
  [CBDELAY=0..100] [CHECKCLI={OFF|PRESENT|REQUIRED}] [CHECKSUB={OFF|LOCAL|
  REMOTE}] [CHECKUSER={OFF|LOCAL|REMOTE}] [CLILIST=0..99] [DIRECTION={IN|
  OUT|BOTH}] [HOLDUP=0..7200] [INANY={ON|OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}]
  [INTPREF={NONE|bri-interface}] [INTREQ={NONE|bri-interface}] [KEEPUP={ON|
  OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}] [LOGIN={ALL|NONE|CHAP|PAP-RADIUS|PAP-TACACS|
  RADIUS|TACACS|USER}] [OUTCLI={OFF|CALLING|INTERFACE|NONUMBER}]
  [OUTSUB={OFF|LOCAL|REMOTE}] [OUTUSER={OFF|LOCAL|REMOTE}] [PASSWORD={NONE|
  CLI|CALLED|SUB|NAME|USER}] [PPPTEMPLATE=template] [PRIORITY=0..99]
  [RATE={56K|64K}] [REMOTECALL=call-name|remote-number] [RN1=0..10]
  [RN2=0..5] [RT1=5..120] [RT2=300..1200] [SEARCHCLI={ON|OFF|YES|NO|TRUE|
  FALSE|CALLED|0..99}] [SEARCHSUB={OFF|LOCAL|REMOTE}] [SEARCHUSER={OFF|
  LOCAL|REMOTE}] [SUBADDRESS=number] [USER={ATTACH|PPP}] [USERNAME={NONE|
  CLI|CALLED|SUB|NAME|USER}]
```

call-name: コール名 (1~15 文字。英数字とアンダースコアを使用可能。大文字小文字を区別しない)

number: ISDN 番号 (1~31 文字。数字のみ)

subaddress: サブアドレス (1~31 文字。英数字とアンダースコア () を使用可能。大文字小文字を区別しない)

bri-interface: BRI インターフェース名

template: PPP テンプレート番号 (1~31)

remote-number: 番号 (1~15 文字)

解説

ISDN コールの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

CALL ISDN コール名

NUMBER 接続先 ISDN 番号 (メイン番号)

PRECEDENCE 接続先と同時に発呼した場合にどちら向きの呼を優先するか。IN は着信呼を優先、OUT は発信呼を優先する。

ALTNUMBER 代替 ISDN 番号。規定回数再ダイヤルしても NUMBER で指定した番号に接続できなかった場合に使用される。ALTNUMBER に対する再ダイヤルは行われない。ただし、KEEPUP パラメーターが ON のときは、NUMBER (RN1 + 1) × (RN2 + 1) 回ダイヤル、ALTNUMBER、NUMBER...の順で呼が確立するまで繰り返し再試行する。

BUMPDELAY コールバンピング（優先度の高い呼を発呼するため、接続中の B チャンネルを切断すること）時に、既存の呼を切断してから、この呼を発呼するまでの待ち時間。0.1 秒単位で指定する。デフォルトは 5（0.5 秒）。

CALLBACK 着呼時にコールバックするかどうか。

CALLINGNUMBER 発番号。OUTCLI パラメーターの説明を参照。

CALLINGSUBADDRESS 発サブアドレス。OUTCLI パラメーターに CALLING を指定した場合にのみ使用される。

CBDELAY コールバック有効時（CALLBACK=ON）に、呼を切断してからコールバックするまでの待ち時間。0.1 秒単位で指定する。デフォルトは 41（4.1 秒）。

CHECKCLI 着信呼の発番号 IE をチェックするかどうか。PRESENT を指定した場合は、呼設定メッセージに発番号 IE が含まれ、なおかつ、有効な番号が含まれている場合にのみチェックを行う。発番号 IE が含まれていない場合や、有効な番号がセットされていない場合は、無条件で認証をパスする。有効な番号が含まれていた場合は、その番号が CLILIST パラメーターで指定した発番号リストに掲載されていれば認証成功、掲載されていなければ認証失敗となる。REQUIRED を指定した場合は、呼設定メッセージに発番号 IE が含まれ、有効な番号が設定されており、なおかつ、発番号リストに掲載されているときだけ認証にパスする。OFF を指定した場合は、発番号 IE をチェックしない。デフォルトは OFF。

CHECKSUB 着信呼の着サブアドレス IE をチェックするかどうか。LOCAL を指定した場合は、着サブアドレス IE に自コール名（CALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ認証成功となる。REMOTE を指定した場合は、着サブアドレス IE にリモートコール名（REMOTECALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ認証成功となる。OFF を指定した場合は、着サブアドレス IE をチェックしない。デフォルトは OFF。

CHECKUSER 着信呼のユーザー間データ IE をチェックするかどうか。LOCAL を指定した場合は、ユーザー間データ IE に自コール名（CALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ認証成功となる。REMOTE を指定した場合は、ユーザー間データ IE にリモートコール名（REMOTECALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ認証成功となる。OFF を指定した場合は、ユーザー間データ IE をチェックしない。デフォルトは OFF。

CLILIST 発番号リストの番号。CHECKCLI パラメーターに PRESENT か REQUIRED を指定した場合にのみ有効。デフォルトは未定義。

DIRECTION 呼の方向。IN（着信専用）、BOTH（発着両用）、OUT（発信専用）のいずれか。デフォルトは BOTH。

HOLDUP ISDN コールの最低持続時間（秒）。ユーザーが呼切断の要求を出したときに、最低持続時間に達していない場合、時間が来るまで切断要求は無視される。デフォルトは 0 秒。

INANY すべての着信呼に回答するかどうか。デフォルトは OFF。複数の ISDN コールに「INANY=ON」を指定してはならない（どの呼が着信応答に使われるか予測できないため）。

INTPREF 発呼時に優先的に使用する BRI インターフェースを指定する。INTREQ パラメーターが指定されているときは無効。発呼時には、指定されたインターフェースを最初にチェックし、ISDN モードの空きスロットがない場合は他のインターフェースを探す。NONE は無指定を意味する。無指定時は、インターフェース番号の若い順に ISDN モードの空きスロット（チャンネル）を探し、最初に見つかったスロットを使って発呼する。デフォルトは NONE。

INTREQ 発呼時に使用する BRI インターフェースを指定する。該当インターフェースに空きチャンネルがない場合は、発呼に失敗する。NONE は無指定を意味する。無指定時は、インターフェース番号の

若い順に ISDN モードの空きスロットを探し、最初に見つかったスロットを使って発呼する。デフォルトは NONE。

KEEPUP 呼を常時接続状態に保つかどうか。このパラメーターの値は、メイン番号（再ダイヤルを含む）、代替番号とも接続に失敗したとき、および、何らかの理由で呼が切断されたとき（ただし、上位モジュールによる切断、管理コマンドによる明示的切断は除く）にチェックされ、YES のときは再度発呼を試みる。デフォルトは NO。

LOGIN 着呼時に必ず使用しなくてはならない認証方式を指定する。後方互換性のためのパラメーター。認証方式には、CHAP、PAP-RADIUS、PAP-TACACS、RADIUS、TACACS、USER（ユーザー認証データベース）、NONE（どれでもよい）がある。CHAP、PAP-RADIUS、PAP-TACACS は、着呼時にダイナミック PPP インターフェースが作成される場合にのみ有効で、PPP テンプレートの設定よりも優先される。デフォルトは NONE。

OUTCLI 発呼時の呼設定メッセージに含める発番号 IE と発サブアドレス IE の形式を指定する。OFF を指定した場合はこれらの IE を設定しない。CALLING を指定した場合は、CALLINGNUMBER パラメーターで指定した発番号と CALLINGSUBADDRESS パラメーターで指定した発サブアドレスを設定する。CALLINGSUBADDRESS パラメーターが設定されていない場合、発サブアドレス IE は呼設定メッセージに含まれない。INTERFACE を指定した場合は、Q.931 インターフェースの番号とサブアドレス（SET Q931 コマンドの NUM1、NUM2、SUB1、SUB2 パラメーター）が使用される。Q.931 インターフェースにサブアドレスが設定されていない場合、サブアドレス IE は設定されない。NONUMBER を指定した場合は、空の発番号 IE と Q.931 インターフェースのサブアドレスが（設定されていれば）使用される。デフォルトは OFF。ルーターが設定しなくても、ISDN 網は呼設定メッセージに発番号 IE を設定する。

OUTSUB 発呼時の呼設定メッセージに含める着サブアドレス IE の内容を指定する。OFF を指定した場合は、サブアドレス IE を含めない。LOCAL を指定した場合は、サブアドレス IE にコール名（CALL パラメーター）を設定する。REMOTE を指定した場合は、サブアドレス IE にリモートコール名（REMOTECALL パラメーター）を設定する。デフォルトは OFF。

OUTUSER 発呼時の呼設定メッセージに含めるユーザー間データ IE の内容を指定する。OFF を指定した場合は、ユーザー間データ IE を含めない。LOCAL を指定した場合は、ユーザー間データ IE にコール名（CALL パラメーター）を設定する。REMOTE を指定した場合は、ユーザー間データ IE にリモートコール名（REMOTECALL パラメーター）を設定する。デフォルトは OFF。

PASSWORD 着信時のログイン処理に用いるパスワードをどこから取得するかを指定する。CLI（発番号 IE）、CALLEDSUB（着サブアドレス IE）、USER（ユーザー間データ IE）、NAME（コール名）、NONE（なし）から選択する。デフォルトは NONE。

PPPTEMPLATE 着信時に PPP インターフェースを動的作成するための PPP テンプレート番号。

PRIORITY 呼の優先度。コールバンピング機能で使用する。値は 0～99。大きいほど優先度が高い。デフォルト値は 50。

RATE B チャンネル上で使用する帯域幅。64K（B チャンネルの全帯域）と 56K（ITU-T V.110）から選択する。このパラメーターの値は発呼時のみ使用される。着呼時の帯域幅は、呼設定メッセージの伝達能力、または、Q.931 インターフェースの帯域幅パラメーター（SET Q931 コマンドの RATE パラメーター）によって決まる。デフォルトは 64K。

REMOTECALL リモートコール名

RN1 リトライグループ内での再ダイヤル回数。デフォルトは 0。

RN2 リトライグループの数（ただし、初回のリトライグループ（グループ 0）は除く）。デフォルトは 0。

最大ダイヤル回数は、 $(RN1 + 1) \times (RN2 + 1)$ となる。デフォルトでは RN1、RN2 とも 0 なので、ダイヤル回数は 1 回のみ（再ダイヤルしない）。

RT1 同一リトライグループ内での再ダイヤル間隔（秒）。デフォルトは 30 秒。

RT2 リトライグループ間の待機時間（秒）。デフォルトは 600 秒。

SEARCHCLI 着信時に発番号 IE に基づく応答判断を行うかどうか。ON を指定した場合は、呼設定メッセージの発番号 IE と NUMBER パラメーターの値が一致した場合のみ、この呼の処理を続ける。発番号リスト（CLILIST）の番号を指定した場合は、発番号 IE にセットされた番号がリストに掲載されているかどうかをチェックし、掲載されていた場合にのみ呼の処理を続ける。OFF を指定した場合は、発番号 IE による応答判断を行わない。デフォルトは OFF。

SEARCHSUB 着信時に着サブアドレス IE に基づく応答判断を行うかどうか。LOCAL を指定した場合は、着サブアドレス IE に自コール名（CALL パラメーターの値）が設定されていた場合のみ、この呼の処理を続ける。REMOTE を指定した場合は、着サブアドレス IE にリモートコール名（REMOTECALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ呼の処理を続ける。OFF を指定した場合は、着サブアドレス IE による応答判断を行わない。デフォルトは OFF。

SEARCHUSER 着信時にユーザー間データ IE に基づく応答判断を行うかどうか。LOCAL を指定した場合は、ユーザー間データ IE に自コール名（CALL パラメーターの値）が設定されていた場合のみ、この呼の処理を続ける。REMOTE を指定した場合は、ユーザー間データ IE にリモートコール名（REMOTECALL パラメーターの値）が設定されていた場合にのみ呼の処理を続ける。OFF を指定した場合は、ユーザー間データ IE による応答判断を行わない。デフォルトは OFF。

SUBADDRESS 発呼時に呼設定メッセージの着サブアドレス IE に設定するサブアドレスを指定する。数字のみ指定可能。接続先ルーターが他の ISDN 機器と ISDN S/T パスを共有しているような場合に使う。OUTSUB パラメーターよりも優先される。デフォルトは空文字列。

USER ISDN コールを利用する上位モジュールの種類を指定する。ATTACH は、コマンド入力によって明示的に設定された上位モジュール（PPP インターフェースなど）を示す。PPP は、着呼後にダイナミック PPP インターフェースを作成する場合に指定する。デフォルトは ATTACH。

USERNAME 着信時のログイン処理に用いるユーザー名をどのようにして取得するかを指定する。CLI（発番号 IE）、CALLEDSUB（着サブアドレス IE）、USER（ユーザー間データ IE）、NAME（コール名）、NONE（なし）から選択する。デフォルトは NONE。

関連コマンド

ACTIVATE ISDN CALL（11 ページ）

ADD ISDN CALL（12 ページ）

DEACTIVATE ISDN CALL（19 ページ）

DELETE ISDN CALL（20 ページ）

DISABLE ISDN CALL（23 ページ）

ENABLE ISDN CALL（26 ページ）

SHOW ISDN CALL（40 ページ）

SET ISDN LOG

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

```
SET ISDN LOG [PORT={0..23|NONE}] [LENGTH=0..100]
```

解説

ISDN コールログ機能の各種パラメーターを設定する。

パラメーター

PORT ログメッセージを出力する非同期ポートの番号。デフォルトは NONE (出力しない)。

LENGTH ログメッセージの最大数。デフォルトは 25。

関連コマンド

DISABLE ISDN LOG (24 ページ)

DISABLE Q931 DEBUG (25 ページ)

ENABLE ISDN LOG (27 ページ)

ENABLE Q931 DEBUG (28 ページ)

SHOW ISDN LOG (47 ページ)

SET LAPD

カテゴリー：ISDN / LAPD

対象機種：AR130、AR160

```
SET LAPD=interface DEBUG={OFF|STATE|PACKET}
SET LAPD=interface
    MODE={AUTOMATIC|NONAUTOMATIC}
SET LAPD=interface [NASMODE={NORMAL|MASTER|
    SLAVE}] [NASMASTER=interface]
SET LAPD=interface SAP=sap K=value
SET
    LAPD=interface SAP=sap {N200|N201|N202}=time...
SET LAPD=interface
    SAP=sap {T200|T201|T202|T203}=time...
SET LAPD=interface {ATTACH=sap|
    CONNECT=sap|DATA=sap CES=ces|ESTABLISH=sap CES=ces|MDATA=sap CES=ces|
    MUNIT=sap CES=ces|RELEASE=sap CES=ces|UNIT=sap CES=ces}
```

interface: スロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

sap: SAPI 値 (サービスアクセスポイント識別子)

value: 整数値

time: 時間 (0.1 秒単位)

ces: コネクションエンドポイントサフィックス (CES) 値

解説

LAPD インターフェースの設定を変更する。

使用するパラメーターによって多様な設定が可能。以下におもなものを挙げる。ただし、通常運用では、本コマンドで設定を変更する必要はない。

- ・デバッグモードの変更
- ・TEI 値 (端末終端点識別子) 割り当てモード (自動、非自動) の変更
- ・D チャンネル共有機能の設定
- ・各種タイマー値の設定

パラメーター

LAPD LAPD インターフェース番号。スロット型インターフェース番号 (ISDN モードの BRI インターフェースに対して 0 から順に割り当てられる番号) で指定する。

DEBUG デバッグモード。OFF はデバッグメッセージを表示しない。STATE は LAPD インターフェースの状態遷移発生時にデバッグメッセージを表示する。PACKET は LAPD インターフェースで受信したすべてのパケットをデコードして表示する。

MODE TEI 値 (端末終端点識別子) 割り当てモード。AUTOMATIC (自動割り当て)、NOAUTOMATIC (非自動割り当て) から選択する。デフォルトは AUTOMATIC

NASMODE 信号チャンネルとしての D チャンネルの動作モード。D チャンネル共有機能の設定に使う。NORMAL は通常時の動作モードで、LAPD パラメーターで指定したインターフェース上の呼に関する制御情報を同じインターフェースの D チャンネルでやりとりする。MASTER は、D チャンネル共有のマスターになることを示す。MASTER に設定されたインターフェースは、該当インターフェース上の呼だけでなく、SLAVE に設定された他のインターフェース上の呼に対しても制御情報の送受信機能を提供する。SLAVE は、D チャンネル共有機能のスレーブになることを示す。SLAVE に設定されたインターフェースでは、該当インターフェース上の呼の制御を別のインターフェース上の D チャンネルを用いて行う。SLAVE を指定するときは、NASMASTER パラメーターでマスターインターフェースの番号を指定する必要がある。デフォルトは NORMAL。

NASMASTER D チャンネル共有時のマスターインターフェース (D チャンネルを提供するインターフェース) を指定する。NASMODE に SLAVE を指定したときの必須パラメーター。NASMASTER に指定するインターフェースの NASMODE は MASTER でなくてはならない。

SAP 設定を変更する SAP の SAPI 値 (サービスアクセスポイント識別子)

K LAPD のシステムパラメーター k (確認待ち I フレームの最大数)

N200 LAPD のシステムパラメーター N200 (LAPD フレームの最大再送回数)。デフォルトは 3。

N201 LAPD のシステムパラメーター N201 (LAPD フレームの情報フィールドに格納される最大オクテット数)。デフォルトは 260。

N202 LAPD のシステムパラメーター N202 (ID 要求メッセージの最大送信回数)。デフォルトは 3。

T200 LAPD のシステムパラメーター T200 (I フレームの再送間隔)。0.1 秒単位で指定する。デフォルトは 10 (1 秒)。

T201 LAPD のシステムパラメーター T201 (ID チェック要求メッセージの最小再送間隔)。0.1 秒単位で指定する。デフォルトは 10 (1 秒)。

T202 LAPD のシステムパラメーター T202 (ID 要求メッセージの最小再送間隔)。0.1 秒単位で指定する。デフォルトは 20 (2 秒)。

T203 LAPD のシステムパラメーター T203 (フレームがやりとりされない最大時間)。0.1 秒単位で指定する。デフォルトは 100 (10 秒)。

ATTACH LAPD インターフェースに追加する SAP の SAPI 値を指定する。

CONNECT SAP に追加する DLC を追加する。

DATA I フレームを 1 個送信する。

CES SAP 上の DLC を識別する値。

ESTABLISH ATTACH コマンドで返ってきた ces 値を使って DLC を確立する

MDATA I フレームを 16 個送信する。

MUNIT UI フレームを 16 個送信する。

RELEASE DLC を解放する。

UNIT UI フレームを 1 個送信する。

関連コマンド

SHOW LAPD (51 ページ)

SET Q931

カテゴリー：ISDN / Q.931

対象機種：AR130、AR160

```
SET Q931=interface [NONUM={ACCEPT|REJECT}] [NOSUB={ACCEPT|REJECT}]
  [NUM1=number] [NUM2=number] [PROFILE={5ESS|AUS|CHINA|DMS-100|ETSI|JAPAN|
  KOREA|NI1|NZ}] [RATE={56K|64K}] [SUB1=subaddress] [SUB2=subaddress]
  [timer={OFF|time}]
```

interface: BRI インターフェース名 (BRI0 など) またはスロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

number: ISDN 番号 (1~39 文字)

subaddress: サブアドレス (0~39 文字。A-Za-z0-9)

timer: Q.931 システムタイマー名 (T301、T302、T303、T304、T305、T308、T309、T310、T313、T314、T316、T317、T318、T319、T321、T322 のいずれか)

time: タイマー値

解説

Q.931 モジュールの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

Q931 BRI/PRI インターフェース名

NONUM 着番号 IE を持たない着信呼に応答するかどうか。デフォルトは ACCEPT。

NOSUB 着サブアドレス IE を持たない着信呼に応答するかどうか。デフォルトは ACCEPT。

NUM1 ルーター自身の ISDN 番号。S/T バスに複数の ISDN 機器を接続している場合に使う。パラメーター名のみで値を指定しなかった場合は現在設定している値がクリアされる。

NUM2 ルーター自身の ISDN 番号。S/T バスに複数の ISDN 機器を接続している場合に使う。パラメーター名のみで値を指定しなかった場合は現在設定している値がクリアされる。

PROFILE 使用する ISDN 網の種類を指定する。SET SYSTEM TERRITORY コマンドで地域を指定すると、自動的に PROFILE パラメーターも設定される。

RATE B チャンネル上で使用する帯域幅。64K (B チャンネルの全帯域) と 56K (ITU-T V.110) から選択する。発呼、着呼両方で用いられる。

SUB1 ルーター自身のサブアドレス。S/T バスに複数の ISDN 機器を接続している場合に使う。パラメーター名のみで値を指定しなかった場合は現在設定している値がクリアされる。

SUB2 ルーター自身のサブアドレス。S/T バスに複数の ISDN 機器を接続している場合に使う。パラメーター名のみで値を指定しなかった場合は現在設定している値がクリアされる。

timer Q.931 のシステムタイマー (T301、T302、T303、T304、T305、T308、T309、T310、T313、T314、T316、T317、T318、T319、T321、T322) の名前とタイムアウト値を指定する。

関連コマンド

SET SYSTEM TERRITORY (「運用・管理」の182ページ)
SHOW Q931 (59ページ)

SHOW ISDN CALL

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

SHOW ISDN CALL [= {*acnum* | *call-name*}]

acnum: アクティブコール番号

call-name: コール名 (1~15 文字。英数字とアンダースコアを使用可能。大文字小文字を区別しない)

解説

ISDN コールの定義内容、および、通信中の呼に関する情報を表示する。

パラメーター

CALL ISDN コール名、または、通信中の呼の番号 (SHOW ISDN CALL コマンドで表示される ISDN active calls の Index 値) を指定する。コール名を指定した場合は、ISDN コールの定義内容が表示される。呼番号を指定した場合は、該当する呼の情報が表示される。省略時は、すべての ISDN コールと、すべての通信中の呼の情報が表示される。

入力・出力・画面例

```

Manager > show isdn call

ISDN call details
Name                Number                Remote call          State                Precedence
-----
HeadOffice          3432114                Regional             (E) IN & OUT        IN
-----

ISDN active calls
Index  Name                Interface            User                State  Prec
-----
0      HeadOffice          BRI0                 03-00              ON     No
-----

Manager > show isdn call=HeadOffice

Call name ..... HeadOffice
Enabled ..... Yes
Remote call ..... Regional
Called number ..... 3432114
Calling number ..... -
Calling subaddress ..... -
Direction ..... IN & OUT

```

```

Precedence ..... IN
Required interface ..... NONE
Preferred interface ..... NONE
Data rate ..... 64k
Use Data Over Voice ..... No
Priority ..... 50
Bump delay ..... 5
Holdup time ..... 0s
Keep call up ..... No
Call back ..... No
Call back delay ..... 41
RN1 (retries per group) ... 0
RT1 (between retries) ..... 30s
RN2 (retry groups) ..... 0
RT2 (between groups) ..... 600s
Alternate number ..... -
Out called subaddress ..... Remote name
Out user data ..... -
Out CLI ..... -
In called sub search ..... Local name
In called sub check ..... -
In user data search ..... -
In user data check ..... -
In CLI search ..... No
In CLI check ..... -
In CLI list ..... none
Match any call ..... No
User type ..... ATTACH
  PPP template ..... Default
Login type ..... RADIUS server
Login user name ..... none
Login password ..... none

Number of attachments ..... 1
User module ..... PPP
Attachment ..... 0

```

ISDN call details セクション	ISDN コールの一覧が表示される。
Name	ISDN コール名
Number	接続先 ISDN 番号
Remote call	リモートコール名
State	ISDN コールの有効・無効と呼の方向 (IN、OUT)。(E) は有効、(D) は無効を示す。
Precedence	同時発呼時に発・着どちらを優先するか
ISDN active calls セクション	通信中の呼の情報が表示される。
Index	アクティブコール番号
Interface	使用している物理インターフェース

User	上位モジュールの識別子とインスタンス番号
State	呼の状態。ON、TRY、WAIT のいずれか。
Prec	発着優先 (PRECEDENCE) パラメーターを実際に使用したかどうか。

表 2:

Call name	ISDN コール名
Enabled	ISDN コールの有効・無効
Remote call	リモートコール名
Called number	接続先メイン ISDN 番号
Calling number	自局 ISDN 番号
Calling subaddress	自局サブアドレス
Direction	呼の方向
Precedence	同時発呼時に発・着どちらを優先するか
Required interface	必ず使用すべき物理インターフェース
Preferred interface	優先的に使用すべき物理インターフェース
Data rate	発呼時の帯域幅パラメーター。56K か 64K
Priority	呼の優先度。コールバンピングで使用。
Bump delay	コールバンピング有効時に、既存の呼を切断してから、この呼を発呼するまでの待ち時間。単位は 0.1 秒
Holdup time	呼の最低持続時間
Keep call up	呼を常時接続状態に保つかどうか
Call back	コールバックの有効・無効
Call back delay	呼を切断してからコールバックするまでの待機時間。単位は 0.1 秒
RN1	リトライグループ内での再ダイヤル試行回数
RT1	リトライグループ内での再ダイヤル間隔 (秒)
RN2	リトライグループの数 (ただし、初回のリトライグループ (グループ 0) は除く)
RT2	リトライグループ間の待ち時間 (秒)
Alternate number	接続先代替 ISDN 番号
Out called subaddress	発呼時に呼設定メッセージの着サブアドレス IE に設定する値。任意の番号 (SUBADDRESS パラメーターを指定した場合)、Local name (自コール名。OUTSUB パラメーターに LOCAL を指定した場合)、Remote name (リモートコール名。OUTSUB パラメーターに REMOTE を指定した場合)、- (なし) のいずれか。
Out user data	発呼時に呼設定メッセージのユーザー間データ IE に設定する値。Local name (自コール名。OUTUSER パラメーターに LOCAL を指定した場合)、Remote name (リモートコール名。OUTUSER パラメーターに REMOTE を指定した場合)、- (なし) のいずれか。

Out CLI	発呼時の呼設定メッセージに含める発番号 IE と発サブアドレス IE の形式。Calling number (ISDN コールの CALLINGNUMBER と CALLINGSUBADDRESS)、Interface number (Q.931 インターフェースの自局番号とサブアドレス)、No number (発番号なし。サブアドレスは Q.931 インターフェースの設定値)、- (なし) のいずれか。
In called sub search	着信呼の検索に着サブアドレス IE を使用するかどうか。使う場合は Local name (自コール名と同じときにマッチ)、Remote name (リモートコール名と同じときにマッチ) のどちらでチェックするか。
In called sub check	着信呼の認証に着サブアドレス IE を使用するかどうか。使う場合は Local name (自コール名と同じときにマッチ)、Remote name (リモートコール名と同じときにマッチ) のどちらでチェックするか。
In user data search	着信呼の検索にユーザー間データ IE を使用するかどうか。使う場合は Local name (自コール名と同じときにマッチ)、Remote name (リモートコール名と同じときにマッチ) のどちらでチェックするか。
In user data check	着信呼の認証にユーザー間データ IE を使用するかどうか。使う場合は Local name (自コール名と同じときにマッチ)、Remote name (リモートコール名と同じときにマッチ) のどちらでチェックするか。
In CLI search	着信呼の検索に発番号 IE を使うかどうか
In CLI check	着信呼の認証に発番号 IE を使うかどうか
In CLI list	発番号 IE 認証で使う発番号リストの番号
Match any call	すべての着信呼に応答するかどうか。検索条件に一致する ISDN コールがなかった場合に使われる。
User type	上位インターフェースのバインド方法。ATTACH (ユーザーがコマンドで明示的に作成する)、PPP (着呼時にダイナミック PPP インターフェースを作成する) のどちらか。
PPP template	ダイナミック PPP インターフェース作成時に使う PPP テンプレートの番号。Default はデフォルトテンプレート。
Login type	着信時の認証方式
Login username	着信時にログインユーザー名をどこから取得するか。
Login password	着信時にログインパスワードをどこから取得するか。
Number of attachments	バインドされている上位モジュールの数
User module	バインドされている上位モジュールの名称
Attachment	上位モジュールのインスタンス番号

表 3: ISDN コール名指定時

関連コマンド

ACTIVATE ISDN CALL (11 ページ)
 ADD ISDN CALL (12 ページ)
 DEACTIVATE ISDN CALL (19 ページ)
 DELETE ISDN CALL (20 ページ)

DISABLE ISDN CALL (23 ページ)

ENABLE ISDN CALL (26 ページ)

SET ISDN CALL (31 ページ)

SHOW ISDN CLILIST

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

SHOW ISDN CLILIST [=0..99]

解説

発番号リストの内容を表示する。

パラメーター

CLILIST 発番号リスト番号。省略時はすべてのリストが表示される。

入力・出力・画面例

```

Manager > show isdn clilist

ISDN CLI list 0
Total fails: 5
Number                Matches
-----
045660234             12
3432115               1
-----

ISDN CLI list 1
Total fails: 104
Number                Matches
-----
3430803               124
3430804               59
-----

```

ISDN CLI list	発番号リスト番号
Total fails	発番号検索に失敗した回数（一致する番号が見つからなかった回数）
Number	ISDN 番号
Matches	該当エントリーに一致した回数

表 4:

関連コマンド

SHOW ISDN CLILIST

ADD ISDN CLILIST (17 ページ)

DELETE ISDN CLILIST (21 ページ)

SHOW ISDN LOG

カテゴリー：ISDN / ISDN コール

対象機種：AR130、AR160

SHOW ISDN LOG

解説

ISDN コールログの内容を表示する。

ISDN コールログには、ISDN コールに関するイベントが記録される。各ログエントリは呼が起動された日時の順に並んでいる。

入力・出力・画面例

```

Manager > show isdn log

```

Call Name	Start Time	Duration	Dir	Number	Cause
HeadOffice	02-Mar-1995 17:46:38	CLEARED	OUT	3432114	N34,-
HeadOffice	02-Mar-1995 17:46:38	CLEARED	OUT	3432114	N34,-
HeadOffice	02-Mar-1995 17:46:38	CLEARED	IN		U88,113
HeadOffice	02-Mar-1995 17:46:38	CLEARED	IN		U88,113
HeadOffice	02-Mar-1995 17:48:22	0:03:25	OUT	3432114	U16,-
HeadOffice	02-Mar-1995 17:55:18	0:05:06	IN		U16,-
HeadOffice	02-Mar-1995 17:55:18	0:05:06	IN		U16,-
HeadOffice	02-Mar-1995 18:02:08	0:01:13	IN		U16,-
HeadOffice	02-Mar-1995 18:02:08	0:01:13	IN		U16,-
HeadOffice	02-Mar-1995 18:16:56	0:01:49	OUT	3432114	U16,-
HeadOffice	02-Mar-1995 18:16:56	0:01:49	OUT	3432114	U16,-
HeadOffice	03-Mar-1995 08:55:54	0:03:30	OUT	3432114	U16,-
HeadOffice	03-Mar-1995 08:55:54	0:03:30	OUT	3432114	U16,-

```

-----
No ISDN logging port defined.

```

Call Name	コール名
Start Time	起動日時
Duration	通信時間（正常終了した呼の場合）、INITIAL（セットアップ中）、ACTIVE（通信中）、DISCONNECT（切断中）、CLEARED（通信状態になる前に切断）のいずれか。
Dir	呼の方向。OUT（発呼）、IN（着呼）のいずれか
Number	接続先番号
Cause	ISDN 切断理由コード（Q.931 理由表示情報要素番号）。先頭のアルファベットはユーザ（U）と網（N）のどちらが切断したかを示す。その後、理由コード、診断コードと続く。

表 5:

1	欠番
6	チャンネル利用不可
16	正常切断
17	着ユーザビジー
18	着ユーザレスポンスなし
21	通信拒否
22	相手加入者番号変更
26	選択されなかったユーザの切断復旧
27	相手端末故障中
28	無効番号フォーマット
29	ファシリティ拒否
30	状態問合せへの応答
31	その他の正常クラス
34	利用可回線/チャンネルなし
38	網障害
41	一時的障害
42	交換機輻輳
43	アクセス情報廃棄
44	要求回線/チャンネル利用不可
47	その他のリソース利用不可クラス
50	要求ファシリティ未契約
57	伝達能力不許可
58	現在利用不可伝達能力
63	その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス
65	未提供伝達能力指定
66	未提供チャンネル種別指定
70	制限デジタル情報伝達能力

79	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス
81	無効呼番号使用
82	無効チャンネル番号使用
83	指定された中断呼識別番号未使用
84	中断呼識別番号使用中
85	中断呼なし
86	指定中断呼切断復旧済
88	ユーザは CUG メンバーではない
91	無効中継網選択
95	その他の無効メッセージクラス
96	必須情報要素不足
97	メッセージ種別未定義または未提供
98	呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義
99	情報要素未定義
100	情報要素内容無効
101	呼状態とメッセージ不一致
102	タイマ満了による復旧
111	その他の手順誤りクラス
127	その他のインターワーキングクラス

表 6: ISDN 切断理由コード (Q931 理由表示情報要素番号)

番号	内容	説明
1	欠番	存在しない電話番号に発呼しました。PBX 使用時は、外線番号の前にアクセスコードが必要な場合があります。
16	正常切断	呼が正常に切断されました。U16 は自分側での切断、N16 は網または相手側端末による切断を示します。
17	着ユーザビジー	発呼先の電話番号は使用中です。
21	通信拒否	相手が着信を拒否しました。呼のパラメーターが正しくない可能性があります。
27	相手端末故障中	相手端末に反応がありません。ISDN 回線の障害または相手端末の電源が落ちている可能性があります。
34	利用可回線/チャンネルなし	発呼に使用する B チャンネルがあいていません。確立している呼の数を確認してください。
42	交換機輻輳	網の障害やサービスの停止などが原因で発呼できません。
88	端末属性不一致	端末属性の一致しない相手に発信されました (例: データ専用機器に対する音声通話など)。

表 7: 基本的な理由表示情報要素番号と説明 (Q931)

関連コマンド

DISABLE ISDN LOG (24 ページ)
DISABLE Q931 DEBUG (25 ページ)
ENABLE ISDN LOG (27 ページ)
ENABLE Q931 DEBUG (28 ページ)
SET ISDN LOG (35 ページ)

SHOW LAPD

カテゴリー：ISDN / LAPD

対象機種：AR130、AR160

SHOW LAPD[=*interface*]

interface: スロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

解説

LAPD インターフェースの情報を表示する。

パラメーター

LAPD LAPD インターフェース番号。スロット型インターフェース番号 (ISDN モードの BRI インターフェースに対して 0 から順に割り当てられる番号) で指定する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show lapd
```

```
Interfaces:
```

ISDN	Type	TEI	Mode	Debug	TEI	NAS mode	NAS master
BRI0	TE	automatic	off	-	Normal	-	

```
SAPs:
```

ISDN	SAPI	T200	T201	T202	T203	N200	N201	N202	k
BRI0	063	000010	000010	000020	000100	000003	000260	000003	001
	000	000010	000010	000020	000100	000003	000260	000003	001

```
DLCs:
```

ISDN	SAPI	CES	TEI	State	V(S)	V(A)	rxN(S)	V(R)	rxN(R)
BRI0	063	000	127	bcast	-	-	-	-	-
	000	000	127	bcast	-	-	-	-	-
		001	-	DEAD	0000	0000	0000	0000	0000

```
Packet parameters:
```

```
BRI0
```

SHOW LAPD

```

Packet mode TEIs: -
Packet mode SPIDs: -
-----

Manager > show lapd

Interfaces:
ISDN      Type      TEI Mode   Debug     TEI      NAS mode   NAS master
-----
PRI0      TE        nonAuto   off       000      Normal    -
PRI0      TE        nonAuto   off       000      Normal    -
-----

SAPs:
ISDN      SAPI      T200      T201      T202      T203      N200      N201      N202      k
-----
PRI0      063      000010   -         -         000100   000003   000260   -   007
          000      000010   -         -         000100   000003   000260   -   007
PRI1      063      000010   -         -         000100   000003   000260   -   007
          000      000010   -         -         000100   000003   000260   -   007
-----

DLCs:
ISDN      SAPI      CES      TEI      State     V(S)      V(A) rxN(S)  V(R) rxN(R)
-----
PRI0      063      000      127     bcast    -         -         -         -         -
          000      000      000     ALIVE    0021     0021     0076     0077     0021
PRI0      063      000      127     bcast    -         -         -         -         -
          000      000      000     ALIVE    0014     0014     0051     0052     0014
-----

Packet parameters:
-----

PRI0
Packet mode TEIs: -
Packet mode SPIDs: -
PRI1
Packet mode TEIs: -
Packet mode SPIDs: -
-----

```

ISDN	ISDN インターフェース名 (BRI0 など)
Type	インターフェースの動作モード。TE (端末装置) か NT (網終端装置)。通常は TE モード。NT はテスト専用。
TEI Mode	TEI 値 (端末終端点識別子) の割り当て方式。Automatic (自動割り当て) か nonAuto (非自動割り当て)
Debug	デバッグオプション。off、state、pkt、st+pkt のいずれか。
TEI	TEI 値 (端末終端点識別子)
NAS mode	D チャンネル共有機能の動作モード。Normal (通常モード。共有しない)、Master (自分の D チャンネルを他のインターフェースに共有させる)、Slave (他のインターフェース上の D チャンネルを使用する)

NAS master	D チャンネル共有機能におけるマスターインターフェース (D チャンネルを提供するインターフェース)。NAS mode が Slave の場合だけ表示される。NAS mode が Normal か Master の場合は「-」と表示される。
SAPI	SAPI 値 (サービスアクセスポイント識別子)
T20x	システムパラメーター T200、T201、T202、T203 の設定値 (単位は 0.1 秒)
N20x	システムパラメーター N200、N201、N202 の設定値
k	システムパラメーター k の設定値
CES	CES 値 (コネクションエンドポイントサフィックス)
TEI	TEI 値 (端末終端点識別子)
State	DLC の状態。ALIVE、DEAD、bcast のいずれか。bcast リンクは 1 つしか状態を持たない。その他のリンクでは、ALIVE は上位層が該当リンクを使用できる状態、DEAD は上位層がリンクを使用できない状態を示す。
V(S)	送信状態変数 V(S)
V(A)	確認状態変数 V(A)
rxN(S)	最新の受信フレームの送信シーケンス番号 N(S)
V(R)	受信状態変数 V(R)
rxN(R)	最新の受信フレームの受信シーケンス番号 N(R)
Packet parameters	X.25 パケットモードのパラメーター
Packet mode TEIs	LAPD (D チャンネル) 上の X.25 パケット通信用 TEI 値一覧
Packet mode SPIDs	LAPD (D チャンネル) 上の X.25 パケット通信用 SPID 値一覧

表 8:

関連コマンド

SHOW LAPD COUNT (55 ページ)

SHOW LAPD STATE (57 ページ)

SHOW LAPD COUNT

カテゴリー：ISDN / LAPD

対象機種：AR130、AR160

SHOW LAPD[=*interface*] COUNT

interface: スロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

解説

LAPD インターフェース上でのフレーム送受信統計を表示する。

LAPD インターフェース全体の統計と、データリンクコネクション (DLC) ごとの統計が表示される。

パラメーター

LAPD LAPD インターフェース番号。スロット型インターフェース番号 (ISDN モードの BRI インターフェースに対して 0 から順に割り当てられる番号) で指定する。省略時はすべての ISDN インターフェースが対象になる。

入力・出力・画面例

```

Manager > show lapd count

ISDN    BRI0

Total Receive                Total Transmit
InOctets:    0000091114    OutOctets:    0000483389
InUcastPkts: 0000000000    OutUcastPkts: 0000000150
InNUcastPkts: 0000000000    OutNUcastPkts: 0000000000
InDiscards:  0000000000    OutDiscards:  0000000000
InErrors:    0000000000    OutErrors:    0000000000
InUnknownProtos: 0000000000

ISDN    BRI0
SAPI    063
CES     000

Receive                Transmit
I Frames:    0000000000    I Frames:    0000000000
UI Frames:   0000000002    UI Frames:   0000000001
RR Frames:   0000000000    RR Frames:   0000000000
RNR Frames:  0000000000    RNR Frames:  0000000000
REJ Frames:  0000000000    REJ Frames:  0000000000
SABME Frames: 0000000000    SABME Frames: 0000000000
DM Frames:   0000000000    DM Frames:   0000000000

```

SHOW LAPD COUNT

DISC Frames:	0000000000	DISC Frames:	0000000000
UA Frames:	0000000000	UA Frames:	0000000000
FRMR Frames:	0000000000	FRMR Frames:	0000000000
XID Frames:	0000000000	XID Frames:	0000000000
Errors			
?:	00000000	A:	00000000
		B:	00000000
D:	00000000	E:	00000000
		F:	00000000
H:	00000000	G:	00000000
		I:	00000000
L:	00000000	J:	00000000
		K:	00000000
		M:	00000000
		N:	00000000
		O:	00000000

ISDN	ISDN インターフェース名 (BRI0 など)
SAPI	SAPI 値 (サービスアクセスポイント識別子)
CES	CES 値 (コネクションエンドポイントサフィックス)
Total Receive	LAPD インターフェース全体の受信フレーム数
Total Transmit	LAPD インターフェース全体の送信フレーム数
Receive	該当 DLC における受信フレーム数
Transmit	該当 DLC における送信フレーム数
Errors	エラー発生数

表 9:

関連コマンド

SHOW LAPD (51 ページ)

SHOW LAPD STATE (57 ページ)

SHOW LAPD STATE

カテゴリー：ISDN / LAPD

対象機種：AR130、AR160

SHOW LAPD[=*interface*] STATE

interface: スロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

解説

ISDN インターフェース上のデータリンクコネクション (DLC) の状態を表示する。

パラメーター

LAPD LAPD インターフェース番号。スロット型インターフェース番号 (ISDN モードの BRI インターフェースに対して 0 から順に割り当てられる番号) で指定する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show lapd state

lapdCount 25045

ISDN  SAPI  CES  TEI  state - oldState
-----
BRI0  063  000  127  bcast(1 - 1)
      000  000  127  bcast(1 - 1)
      001  064  LAPD_ESTABLISHED(7) - LAPD_TIMER_RECOV(8)
-----

```

ISDN	ISDN インターフェース名
SAPI	SAPI 値 (サービスアクセスポイント識別子)
CES	CES 値 (コネクションエンドポイントサフィックス)
TEI	TEI 値 (端末終端点識別子)
State	DLC の現在の状態
oldState	DLC の 1 つ前の状態

表 10:

関連コマンド

SHOW LAPD (51 ページ)

SHOW LAPD STATE

SHOW LAPD COUNT (55 ページ)

SHOW Q931

カテゴリー : ISDN / Q.931

対象機種 : AR130、AR160

SHOW Q931 [=interface] [CALL [=q931-call-id]]

interface: BRI インターフェース名 (BRI0 など) またはスロット型インターフェース番号 (0、1、2...)

q931-call-id: Q.931 コール番号

解説

Q.931 インターフェースに関する情報 (Q.931 プロファイル、各種タイマー値、通信中の呼の情報など) を表示する。

パラメーター

Q931 BRI インターフェース名。省略時はすべてのインターフェースの情報が表示される。

CALL Q.931 呼番号。単に CALL とだけ指定した場合は、すべての通信中の呼の情報が表示される。呼番号を指定した場合は、該当する呼の情報だけが表示される。

入力・出力・画面例

```

Manager > show q931

Q.931 interface ... BRI0
Profile ..... JPN-BR
ASD state ..... Operational
Data rate ..... 64k
Number 1 ..... -
Sub-address 1 .... -
Number 2 ..... -
Sub-address 2 .... -
DOV number ..... -
No number ..... Accept
No sub-address .... Accept
DLC1
  State ..... Released
  SPID state ..... OP
  SPID file state ... 0 (No SPIDs entered, auto SPID not run or in progress)
DLC2
  State ..... Inactive
Common D channel
  Interface ID .... -
TSPID ..... 20
T301 ..... -

```

T302	-
T303	-
T304	15
T305	30
T308	4
T309	90
T310	-
T313	4
T314	-
T316	-
T317	-
T318	-
T319	-
T321	-
T322	4

Q.931 interface	ISDN インターフェース名
Profile	使用中の Q.931 プロファイル。詳細は別表を参照。
ASD state	ASD(Auto switch detection)の状態(ASD-0、ASD-1、ASD-2、ASD-3、ASD-4、ASD-5、ASD-6、Operational)
Data rate	インターフェースのデータ通信速度 (56k か 64k)
Number 1, 2	インターフェースに割り当てられた ISDN 番号
Sub-address 1, 2	インターフェースに割り当てられたサブアドレス
No number	着番号 IE が含まれていない呼に応答するかどうか。
No sub-address	着サブアドレス IE が含まれていない着信呼に応答するかどうか。
DLC n	データリンクコネクション (DLC)「n」に関する情報が表示される。
State	DLC の状態 (Initial、Terminal initiated、Network initiated、OK)
SPID state	SPID 初期化処理の状態 (NULL、IWAI T1、IWAIT2、IWAIT3、AWAIT1、AWAIT2、AWAIT3、5ESSNOTINIT、ASPID1、ASPID2、ASPID3、ASPID4、OP、5ESSPINIT、5ESSMINIT)
SPID file state	SPID ファイルの状態。1～13 の数字で表される。
Current SPID	ルーターが DLC 初期化に使用している現在の SPID
USID	USID (User Service Identifier)、DLC の State が OK のときだけ表示される。
Terminal ID	インターフェースの端末 ID。USID 内で一意。DLC の State が OK のときだけ表示される。
TSPID	SPID リトライタイマー値
Common D channel	D チャンネルのパラメーターが表示される。
Interface ID	D チャンネルのインターフェース識別子
T301 ~ T322	各システムパラメーターのタイムアウト値

表 11: CALL オプション省略時

5ESS-BR	米国/カナダ Lucent 5ESS (BRI)
AUS-BR	オーストラリアテレコム (BRI)
AUS-PR	オーストラリアテレコム (PRI)
China-BR	チャイナテレコム (BRI)
China-PR	チャイナテレコム (PRI)
DMS100-BR	米国/カナダ Nortel DMS-100 (BRI)
ETS-BR	欧州 (EU/EFTA) ETSI (BRI)
ETS-PR	欧州 (EU/EFTA) ETSI (PRI)
JPN-BR	日本 (BRI)
JPN-PR	日本 (PRI)
KOREA-BR	韓国 (BRI)
KOREA-PR	韓国 (PRI)
NI1-BR	米国/カナダ National ISDN (BRI)
NZL-BR	ニュージーランドテレコム (BRI)
NZL-PR	ニュージーランドテレコム (PRI)
US ASD-BR	米国/カナダ Auto switch detection (BRI)

表 12: Q.931 プロファイル一覧

Inter	ISDN インターフェース名
Index	コールインデックス番号 (内部的な識別子)
State	Q.931 呼状態
CallRef	Q.931 呼番号
CallRefInit	呼の起動者
Timer	タイマー
ToGo	タイマー残量
TOs	タイムアウト回数

表 13: CALL オプション指定時

関連コマンド

SET Q931 (38 ページ)